



特別
リ5
12432
12



料
15
12432
12

大周記十二

相模國小田原氏政家傳之事

國東陣軍役之事

兵糧奉納之事

小田原氏色笠之事

恒氏政山中之城人加勢之事

小田原藤山南城押之事

間宮松田忠志之事

山中為城之事

敵方所く人殺法之事

氏政籠城之事

上川松枝之城主成隆人事

松山之城主八王寺之变

武川新丸城之变

小田原回者 再思之城之变

岩付落城之事

松田尾張守事 小田原城復讐之变

氏政氏照切腹之事

奥羽九戸之事

御知り割之度

大同元十二

小湊南菴之乱

○相換國小田原氏政家傳之事

抑小傳大系大吏氏政の由事と委那わらう事

國之八男助威の末裔伊勢新九郎と云一人是

其元祖也於備中國不知三百變之故主として有

三の立身之願之趣思惟親行身を子之りて

三そのれ一。その國之守護を可親に理し此を

國を謀るらんハ力急一と云。三百變之代と同

姓の富家子賣投字法次乃何と云と求ぬ

武男且備一七二十条人百具一原正三年之



去國東へして武志修^{シユキヤウ}つたつた。先天照大神を
奉^{キタ}祭^{マツル}るやと思ひ至^{キタ}山田^{ヤマタ}ニ七日^{シツニチ}滅^{メツ}せとありし^{キヤク}新^{ニホ}志^シ
了^{キタ}て立^{タチ}子^コありし。そは後河國之大守今川兼光^{イムカワノカミミツ}や
殷富^{イニフ}され人^{ヒト}多^タし。新^{ニホ}志^シ後^{ノチ}府^ノ子^コ遠留^{トウリウ}一^{ヒト}國^{クニ}之^ノ仕^シ並^ナ
軍^{イクサ}法^{ホウ}等^トとせしむる。起^キる人^{ヒト}多^タし。先^マに^ニ分^{ワケ}れ^ル。大^{オホ}
守^ノに^ニ奉^{ツカ}へ^ルと思^ヒひ^キ進^{シン}習^{シユ}子^コ使^シは^ル。片^{カタ}に^ニん^ニと^ト望^{ノゾ}
一^{ヒト}つ^ツく。即^スお^ノ洞^{ツツ}庭^{テイ}後^{ノチ}之^ノ臣^シと^ト成^ナり^シ。新^{ニホ}志^シ大^{オホ}
乃^ノ程^ハと^ト大^{オホ}守^ノ尺^{シツ}ありて^テ三^{サン}百^{ヒャク}人^ニ之^ノ勢^{セキ}と^ト附^{ツキ}治^シ小^コ淵^ノ武^ブ
勇^{ユウ}之^ノ功^{コト}も^モか^カき^キ一^{ヒト}つ^ツく。長^{チヤウ}祿^{リク}二^ニ年^ニ十^{ジュウ}丹^{タン}伊^イ豆^{トウ}國^{クニ}並^ナ山^{シラ}
之^ノ城^{シロ}主^ノと^トありて^テ守^ヲり。と^ト川^{カハ}後^{ノチ}此^{コノ}節^{セツ}や^ヤしく^シ並^ナ山^{シラ}

を^ヲ過^スす^ルの^ノと^ト知^チり^シひ^ヒて^テそ^ノ外^ノに^ニ他^タ無^ク也^{ナリ}。每^ス物^{モノ}の^ノ節^{セツ}法^{ホウ}等^ト
無^ク私^シ心^{シン}も^モ一^{ヒト}つ^ツく^ル。民^{タチ}も^モ親^ニし^テ之^ノ古^コ率^{ソツ}も^モ一^{ヒト}つ^ツく^ル
乃^ノお^ノ所^{トコロ}ふ^カふ^カ一^{ヒト}つ^ツく^ル。勢^{セキ}も^モ一^{ヒト}つ^ツく^ル。聖^{セイ}王^{オウ}豆^{トウ}列^{レツ}之^ノ大^{オホ}敵^{テキ}と^ト
一^{ヒト}一^{ヒト}之^ノ國^{クニ}平^{ヘイ}均^{キン}と^ト返^{タイ}治^チ一^{ヒト}つ^ツく^ル。即^ス休^カ之^ノ後^{ノチ}護^ゴ
職^{シヨク}子^コ補^ホを^ヲし^テ進^{シン}り^シ。より^リ飛^ヒ勢^{セキ}在^シ天^{テン}と^トも^モ一^{ヒト}つ^ツく^ル。健^{ケン}運^{ウン}成^{セイ}
ん^ニ乃^ノま^マり^シ。あ^ハら^ハり^シ。因^ニて^テ又^{マタ}勇^{ユウ}益^{イク}満^{マン}り^シ。士^シと^ト撰^{セン}奉^{ホウ}
志^シは^ハ羽^ウ翼^{ヨク}成^{セイ}ぬ。七^{シチ}十^{ジュウ}より^リて^テか^カと^トあり^シ。志^シ乃^ノり^シ
早^{サウ}雲^{ウン}と^トし^テ一^{ヒト}つ^ツく^ル。名^ナ子^シ氏^シ總^{ソウ}ノ家^カ督^{トク}有^リて^テ安^{アン}南^{ナン}を^ヲ
守^ヲり^シ。境^{キヤウ}界^{カイ}と^ト一^{ヒト}つ^ツく^ル。終^{シュウ}り^シ。氏^シ總^{ソウ}ノ息^{イク}氏^シ康^{カウ}其^キ子^シ

大國也

三

氏政の子氏直に連續し、五代のくく、乙未、氏
政、出、手、取、國、と、押、給、し、振、務、成、不、忘、給、目、不、忘、
或、余、之、後、乃、勤、な、り、う、い、秀、吉、之、政、是、
之、衰、き、を、也、と、且、と、改、め、ま、く、敬、し、津、田、守、
人、佐、富、田、右、衛、門、尉、を、使、志、と、す、て、其、下、に、
上、
京、東、内、可、將、人、也、あ、ま、り、の、國、を、領、し、不、忘、
君、身、に、人、に、人、子、と、と、理、を、あ、べ、し、一、義、と、精、
一、
度、之、保、給、ひ、し、う、升、才、一、部、板、山、之、部、一、を、和、
く、一、才、二、老、を、國、の、子、に、な、れ、あ、ら、う、は、是、ま、
て、い、よ、も、備、し、と、思、ひ、し、あ、り、諫、し、唯、小、の、名、の、こ、

し、て、實、る、く、又、ひ、し、ま、り、の、い、ま、し、は、あ、ら、う、だ、
た、或、余、子、應、不、忘、之、中、と、強、く、行、い、て、是、月、を、
し、ら、り、ち、な、る、し、ら、り、し、ま、り、し、ら、り、し、
也、と、百、深、平、意、し、け、ら、い、昔、七、平、氏、乃、軍、將、十、
万、餘、騎、由、丹、津、系、と、陣、を、あ、ら、う、し、り、合、戦、の、事、
ん、な、も、ち、く、新、あ、る、乃、の、時、音、を、こ、こ、ま、ま、立、て、出、
と、ら、り、し、い、不、忘、や、る、と、云、ま、ら、し、み、只、國、の、衆、吉、を、本、氣、
者、ま、く、仍、保、し、め、れ、る、是、に、幾、内、者、の、事、に、く、ま、り、
一、。舊、國、を、ま、ま、と、以、て、用、む、ら、う、と、も、お、し、と、
心、乃、其、こ、う、を、な、ら、し、り、一、也、何、ら、う、と、お、し、ら、う、と、あ、

使としてわきまをり。兵分陣田富田もその後と
 推察し一筋としてたゞ去る上りなり。秀吉
 乙卯石指の若平宗盛の。さき川より逐上りし
 分やうに某とありておのれ。善いとも
 虚実と見えし。物と。想うておのれらへ
 けり。来り。ほと。おのれらへ。

○来去関東陣御軍候之事
 五等四等後中國口人役再四國曰
 故より尾列に至りて六人役
 小國六人半役を二三段甲位此五ヶ國七人役

右任軍候々者素より三月朔日之
 小田原小條あり志勤志也の如件
 天正十七年己丑十月十日
 秀吉所判
 とき國々廻文有々

○兵糧取貯之事
 ナツカ
 長兼大荒大捕と首して
 彼御付年内より代出りしより二十万石
 此頃よりすの如き後別は尾張
 と立入置也軍勢のにお後各地
 要黄金を其

徳江渡勢尾二を逐出ケ國子とあつて兵糧と
調能よ合海店小田原を道の船是くおお船が被
作お何も十一月初旬より方々之備へ急行り
州。流率路次中。狼藉寫るまきやうよとて
をとおまき。宿をもとけあえさるやうに
ひり。成。寔。六。方。餘。の。多。勢。な。れ。た。軍。法。正
し。た。れ。八。神。の。口。邊。を。れ。く。せ。く。や。う。あ。り。し
り。せ。り。

○相列小田原治を逐出ケ事

去年十月小田原への陣あり一討多しの日

敵もあつてに突進して。だうにも回らざり。天正
十八年の正月も祝の終よ。あつても日教立。夜更
中の五首もやうくさげさへ。おとろふ初。二月
日。く。日。限。ぬ。う。れ。る。や。う。よ。因。事。ぬ。る。人。多。う。り。け
り。五。幾。南。海。山。陰。山。陽。山。陰。海。江。別。濃。別。伊。賀。越。前
合其勢二千二葉張。勢尾二別八位権。江の益。勢
なり。二葉。奉。張。甲。信。張。を。二。八。家。康。心。分。國。を。勢
二萬五千張。三月朔日。おたき。て。國。々。之。使。り。既
ひ。宿。陣。し。ゆ。し。ゆ。合。り。も。あ。り。て。足。陣。八。富。士
乃。根。つ。ゆ。針。蕭。原。色。よ。先。濃。せ。り。久。は。援。陣。ハ

尾濃之百子（カ）扣へてぐりかつて秀吉と三月十九日
都々々せ給ふその日のあきけつと頼子（キ）がひく給
あり。此太刀を一人とてとてくくくくくくくくくく
子物一拾ひ一とうちひされん。此（キ）杖杖杖
宗子と八云子とあり。其形を伝出立中とて端
乃ありはも覚しゆくと。各名数一を於（キ）徳徳
とと搦（ラ）ひ一。此法中の人と申すやあり。其
堀津大坂をくくく見物よ上のほひ。さざ
と打てたおせしうえ。秀吉とてはさけよん
よぐり。日教程多く換りて。同大い日よ海軍

乃三流よ志陣一給んとのりよて。先陣とて
一被作かたるハ次ハ日五三嶋ありと。此陣とて系徳
後大吏の人と小姓五人六人右連わりやくに。其
逐り出るとあり。此（キ）乃り子とあり。何れも
有一よ兵風神と取法くらひ出向ひつ。早連法
志陣目か。其存る者やよとあり。

○此小田原（カ）取とて山中一人を
山中之城主として松田兵部大史取有一のたど
交上り勢を可お防家初るるに固て小條た出
大吏乃其豊前守親倉能也と加勢として。

美越之者^三益^三之^三事^三子^三て^三り^三く^三ん^三正月廿日
 三人^三と^三め^三一^三事^三た^三く^三既^三氏^三政^三の^三國^三一^三教^三を^三之^三後^三
 乃^三合^三者^三子^三益^三氏^三之^三刀^三簡^三官^三子^三國^三者^三之^三刀^三於^三念^三子^三腹^三指^三
 と^三揚^三り^三と^三者^三教^三を^三授^三累^三之^三武^三功^三と^三夜^三山^三平^三荒^三城^三
 之^三一^三事^三子^三七^三之^三一^三と^三也^三有^三分^三可^三交^三先^三武^三者^三亦^三子^三も
 在^三り^三極^三忠^三死^三之^三也^三人^三何^三後^三に^三も^三可^三後^三忠^三義^三之^三象^三也^三
 と^三安^三ん^三一^三と^三あ^三ん^三と^三あ^三つ^三の^三り^三も^三り^三立^三ら^三ん^三と^三あ^三ん^三
 事^三其^三忠^三子^三堪^三き^三り^三と^三濠^三座^三鳴^三と^三感^三一^三出^三ぬ^三罪^三念^三
 こと^三多^三く^三廣^三る^三り^三も^三あ^三く^三親^三一^三き^三方^三子^三付^三け^三る^三や^三く^三一^三
 小^三傳^三る^三忠^三誠^三己^三こ^三り^三も^三極^三れ^三山^三中^三之^三城^三ハ^三善^三信^三忠^三義^三

あ^三さ^三ら^三り^三て^三多^三勢^三と^三信^三も^三あ^三る^三城^三も^三あ^三る^三
 是^三れ^三極^三り^三も^三四^三片^三之^三老^三疾^三と^三荒^三も^三あ^三る^三信^三も^三あ^三る^三一^三
 如^三く^三も^三お^三か^三り^三と^三な^三れ^三て^三の^三り^三も^三あ^三る^三荒^三も^三あ^三る^三一^三
 余^三ハ^三因^三義^三極^三一^三と^三云^三ふ^三又^三因^三事^三重^三く^三も^三あ^三る^三一^三
 や^三某^三ん^三た^三合^三吾^三遂^三討^三死^三な^三ん^三ぞ^三り^三も^三あ^三る^三一^三
 城^三十^三ヶ^三道^三乃^三政^三と^三な^三る^三も^三あ^三る^三理^三に^三違^三は^三ず^三
 の^三こ^三多^三く^三あ^三る^三一^三も^三あ^三る^三一^三も^三あ^三る^三一^三も^三あ^三る^三
 一^三も^三あ^三る^三一^三も^三あ^三る^三一^三も^三あ^三る^三一^三も^三あ^三る^三
 〇小田原^三並^三山^三支^三城^三押^三之^三人^三あ^三る^三一^三も^三あ^三る^三
 秀^三吉^三公^三所^三津^三屋^三入^三せ^三あ^三り^三て^三所^三行^三水^三を^三一^三好^三ひ^三つ^三

傳氣色にて法法後何りかて 岩山遊山
 中々繪圖と刀居ひとくくせし ありは 桑原の鐘
 考^{セウ} ありありし 福原たるゆとめして明日
 山中に城と伝書^{シヨリ}の付^{セムカニ}の枚^{セムカニ} 桑原康成
 賢ハ小田原口へし 向^{カニウ}し 信雄は之を勢并細
 川越中守蒲生忠三郎中川右兵衛尉本林右を
 考^{セウ}とハ 藤山之城乃聖人せして 孫一と云き 山
 中々城へハ秀次卿をを日々大木と 而^{オウレン}之
 面々其勢五万衆強と云 一の打圍^{カニム}之昔少重
 可^{カニム}申と被^{カニム}神付たり

○同宮豊前守松田兵衛大守
 昌之丞おち 政子ハ正月廿日の口乃孫^年子
 人^{カニム}のまのまの孫一人有と 小田原
 とくく海へ名をを孫^{カニム}てくれりと云合
 あり。社^{カニム}父と尺とて 名字を清山^{カニム}に代わる
 して十五^{カニム}家^{カニム}よりなり 桑原^{カニム}因^{カニム}解^{カニム}して
 約^{カニム}ありし 桑原^{カニム}とて云し 海^{カニム}ハ不孝^{カニム}弟^{カニム}の
 者^{カニム}ありと 桑原^{カニム}とて云し 桑原^{カニム}とて云し
 六歳^{カニム}よりなりし 桑原^{カニム}とて云し 桑原^{カニム}とて云し
 松田兵衛大守と云し 桑原^{カニム}とて云し

あり方よりとまゝよりと。小條乃忠尉然
 三人加勢ありあり。其未大ま勢
 城之事無して可致忠死にお寤め松田虎
 平の一人以書問云るら。其業。カ。つ。ち。り。り。力上
 ありあり。一。ま。せ。ハ。多。勢。を。り。藩。運。と。あ。固。や
 一。あ。く。ハ。雖。然。は。名。を。と。け。り。一。ま。あ。り
 死。に。不。遂。討。死。也。子。孫。お。孫。の。後。孫。入。由。也
 當。者。一。ハ。業。の。た。の。を。ち。り。り。一。其。業。大。ま
 興。し。あ。り。山。中。と。隙。に。これ。動。九。危。き。勢。と。救。ひ
 死。と。吾。色。より。り。り。一。一。亦。敢。解。き。節。我。之。士。也。

○山中之陣落去之事

秀吉々三勢々々。此陣何人何を穿もた。三
 勢々々。徳侯乃更と彼を連。山中。並。山。つ。り。せ。西
 の。山。上。と。を。り。り。山。中。之。陣。と。能。下。其。流。入
 了。の。り。り。付。安。と。付。あり。わ。取。く。業。三。の。色
 也。の。勢。に。は。い。は。は。之。を。り。り。と。取。安。不
 甲。吉。而。使。番。と。以。被。作。付。又。三。枝。槍。入。此。勢
 と。ら。お。納。御。並。日。九。日。は。勢。と。僅。一。お。亦。何。と
 上。も。り。り。は。信。安。色。り。り。小。屋。具。也。三。為。何
 一。あ。り。り。に。付。り。各。及。り。り。何。は。な。り。已。之

傳等をゆへ也。其先々外一掃くりさなり。志
くくを依^テ依^ニ色^ニ分^クくと思ひせし。亦依^テボ
らくと^カ勢^ニ越^ス足^ルし。其丸^ハ二所^ニ計^ス者^ハ
さうと下^ニ置^キ依^テ一^ニ系^トに^テり^テ敷^キにおてそ
一^ハ五^ニ十^ニ人^ノ之^ノ鉄^砲之^者見^ルべ^ク人^ノ思^ヒひ^タん
引^ク入^ルに^テ困^ルて。勅^言出^ル村^はを^テ一^ニ系^トと^シて
そ^ノ多^クく^ハお^しり^者に^テ鉄^砲丸^一度^一つ^つ
屋^立時^と作^りお^しり。其^ハ後^をと^シて^下さ^ん
丸^セと^つり^一た^りと^くて^鉄砲^丸の^とき^ま
し^りつ^んは^ハ丸^橋の^とく^く危^うり^く三十^名

こ^りり^たり^し。其^ハつ^つや^と多^ク勢^でし^とあ^らハ
あ^らし^勢ハ^五三^十人^とり^おハ^らく^さは
一^と思^ひ置^く之^ハ後^をと^シて^下さ^ん
ら^し可^能に^音使^ふと^して^一入^又ぎ^いと^し
す^ね後^一と^し。二^と之^ハ後^をと^シて^下さ^ん
て^地物^と立^七八^所と^者一^と西^と即^時一^と東^部
が^補と^立と^り一^と右^と後^をと^シて^下さ^ん
く^守忍^西部^を一^と由^一入^とり^く後^をと^シて^下さ^ん
勅^言出^ル用^一と^西へ^くけ^たり^者や^り
又^ハ人^一と^しり^{。後}く^あり^を後^とと^シて^下さ^ん

大信新十二
に測るるも一なり。勅を求式部より傳へ任志
と申しもしや佐治のにも及ぶと一旦せめて成
るるも是れも衆も攻めたるに依りんとす
しうん。是れも衆も攻めたるに依りんとす
夜通て種部一たり。此れ他も務攻め
つるも一攻めたるに依りんとす。計ひ申すに
に因りて我も任志の計ひ申すに依りんとす
は打撃極まるも一。此れ他も務攻めたるに
より十人計りつゝいゝ。此れ他も務攻めたるに
ハ又先へ打り。即先とさき幾く。此れ他も務攻めたるに

他人の御中陣より島毛大守月々振也と見え
やくと宮にいつ。所流とす。打つて多
くも大貝と立よと傳へり。此れ他も務攻めたるに
に吹かぬ。勅を求式部より傳へ任志と申しもしや
此れ他も務攻めたるに依りんとす。計ひ申すに
後多し。新右衛門未升久石流とす。此れ他も務攻めたるに
お丸のしり。三十日計也。此れ他も務攻めたるに
と款と返り。此れ他も務攻めたるに依りんとす。計ひ申すに
て。二三度傳へ合色幾りんとせり。此れ他も務攻めたるに
産と上り。此れ他も務攻めたるに依りんとす。計ひ申すに

丸をとりきたし。浦へ進入し。他は勢ハ二人
と突へ。中村は勢ハ二あり。右之勢ハ足止
し。大母衣ホロも。少武志二誘ヒサシひ。そ。それ
一。つ。さ。あ。し。紅カサ梅シメ子シメへ。突。入。二。人。ハ。居。り。て。首
取。り。形。本。陣。人。持。来。し。昨日は。り。あ。り。久。し。て
細。く。説。り。し。そ。今。然。之。其。首。と。して。て
下。り。り。そ。性。急。と。知。れ。其。二。人。本。陣。持。来。
ら。り。也。後。方。と。り。丸。口。に。は。上。望。み。有。
し。を。付。入。に。せ。り。く。欲。し。一。人。一。人。も。あ。る。人。
こ。も。有。又。八。角。小。と。り。多。く。鉄。炮。イロ

あ。ら。ゆ。一。く。ん。と。く。た。め。し。ひ。さ。き。去。り。其。
所。只。れ。足。志。を。とり。さ。ハ。此。方。へ。あ。り。と。く。
有。り。内。上。と。り。あ。り。後。方。に。何。と。く。く。
を。保。も。性。急。と。ゆ。く。以。升。兵。右。邊。つ。討。降。り。を。
係。七。兵。中。川。と。り。中。村。と。り。此。方。は。二。つ。古。
田。久。乃。生。志。等。也。あ。り。り。と。妙。も。有。り。鉄。炮。に。當。
り。皆。果。ら。り。と。り。海。寺。と。り。乃。こ。も。や。後。り。り。也。
人。劫。去。出。に。し。り。り。と。と。跡。と。り。り。り。り。
山。形。鉄。炮。城。の。時。も。よ。ふ。り。人。も。負。死。人。
お。す。め。一。つ。た。そ。も。事。と。り。也。と。大。隊。を。導。ん

船業内紀云つくと歩^五こ^五再^五り。勅^五言^五采^五也
 丸^五の^五位^五形^五也^五備^五山^五先^五振^五包^五たりと^五或^五
 一^五たり^五く^五家^五に^五寄^五合^五勢^五之^五道^五也^五志^五丸^五。振^五
 目^五手^五へ^五行^五一^五と^五し^五と^五よ^五と^五ら^五し^五一^五ら^五ハ^五二^五丸^五
 塙^五裏^五は^五く^五う^五ら^五一^五鉄^五炮^五丸^五が^五く^五わ^五き^五と^五ら^五せ^五ん
 許^五也^五思^五ひ^五助^五め^五一^五面^五ん^五ど^五ハ^五鉄^五炮^五と^五せ^五れ^五ハ^五不
 所^五に^五ら^五と^五後^五多^五又^五志^五先^五一^五と^五ら^五の^五後^五を^五到^五こ^五
 丸^五の^五計^五も^五進^五立^五せ^五し^五こ^五ら^五丸^五。二^五丸^五の^五門^五口^五欄^五
 友^五ま^五に^五有^五て^五衆^五入^五相^五ま^五す^五に^五一^五を^五教^五に^五し^五り^五門^五
 之^五眼^五と^五お^五破^五ら^五。込^五入^五久^五ハ^五懸^五く^五之^五無^五丸^五。ゆ^五色^五也^五

提^五け^五く^五も^五り^五指^五さ^五蹴^五い^五一^五と^五勅^五言^五采^五射^五大^五言^五度^五
 と^五と^五あ^五一^五者^五の^五連^五一^五絶^五来^五い^五く^五と^五進^五立^五け^五進^五ん^五
 之^五こ^五も^五引^五く^五一^五て^五丸^五の^五計^五も^五進^五立^五せ^五し^五り^五
 衆^五こ^五こ^五入^五衆^五に^五三^五丸^五と^五二^五丸^五の^五回^五た^五ら^五た^五ら^五水^五
 衆^五衆^五を^五う^五ら^五く^五たり^五。是^五一^五十^五台^五條^五の^五橋^五有^五一^五
 と^五衆^五り^五を^五こ^五の^五時^五分^五敵^五と^五打^五交^五す^五進^五立^五せ^五し^五り^五
 進^五立^五せ^五し^五一^五丸^五乃^五門^五と^五し^五を^五さ^五ら^五せ^五し^五付^五入^五
 之^五衆^五分^五を^五さ^五ら^五し^五。一^五武^五を^五あ^五く^五に^五解^五了^五後^五
 之^五有^五一^五丸^五。目^五を^五う^五ら^五す^五と^五丸^五と^五を^五
 進^五立^五せ^五し^五衆^五は^五大^五衆^五あ^五り^五有^五け^五り^五一^五丸^五鉄^五

炮をかくらうらうる作へた。大板を叩き退き退
 矢印くくく劫を傍射乗より肉を己くくく
 し。大なる度回あり。人多く入るれり。撲くや
 有らん大なるなれたは。武上二百人餘者
 有り。面し。ゆるやと。此上ハと思入
 一。船務林娘にそりく。にゆれ。船中を之に
 有。飛てけり。大なると突く。けし。時能
 解の矢。会。此。後。引。上。に。因。て。思。を。く。く。思。を
 引付く。く。入。り。ん。を。後。ろ。か。せ。く。く。り。一。板
 右。く。く。く。思。を。後。ろ。か。せ。く。く。り。一。板

我。後。後。を。は。い。さ。く。あ。り。を。て。鐘。を。以。た。く。さ。め
 元。内。一。時。流。作。後。を。と。前。右。馬。射。射。射。射
 一。く。く。手。勢。け。つ。し。是。其。年。と。後。く。く。推。上。り。れ
 八。二。が。一。二。五。位。に。敵。百。人。餘。居。り。り。一。り。城。主。初。回。其。米
 大。丈。が。筋。此。り。又。其。お。り。し。ん。や。成。ま。し。き。是
 あ。い。か。ん。切。腹。口。一。り。の。筋。流。多。き。手。勢。う。盛。者。若
 け。く。り。か。一。一。一。と。鐘。と。乗。入。り。し。く。く。を。丸。七
 丸。七。一。一。く。丸。七。の。筋。流。多。き。手。勢。う。盛。者。若
 丸。七。一。一。く。丸。七。の。筋。流。多。き。手。勢。う。盛。者。若
 丸。七。一。一。く。丸。七。の。筋。流。多。き。手。勢。う。盛。者。若

湯尾若方稱曰中村式部少備駿河國と稱欲也ハ
 皇川の中之然と中村一旦一攻取ル其功之成也
 此、之、か、ひ、日、之、む、道、通、也、一、以、謀、之、也、
 在、後、多、劫、兵、來、死、死、に、後、多、之、主、也、中
 に、一、私、心、不、久、一、予、々、為、思、初、之、也、也、
 雲、隱、法、と、稱、一、了、却、國、恩、ハ、三、之、也、也、
 在、一、之、不、生、一、後、多、之、事、一、思、一、也、也、
 少、之、内、務、私、部、一、也、一、也、也、也、也、也、
 子、心、一、熱、多、之、事、一、也、一、也、也、也、也、
 死、同、殺、之、也、一、也、一、也、一、也、一、也、一、也、
 一、也、一、也、一、也、一、也、一、也、一、也、一、也、

に因くあり何ハ不系一也

○款方所人殺儀之事

當、亦、も、七、城、の、内、外、考、傳、号、野、一、也、一、也、
 尺、一、一、伊、豆、お、換、成、院、上、野、下、野、安、房、上、院、下
 総、之、勢、口、方、有、好、再、人、足、三、万、人、と、い、也、也、
 多、之、也、一、一、也、一、也、一、也、一、也、一、也、
 比、一、一、也、一、也、一、也、一、也、一、也、一、也、
 至、當、國、可、致、後、向、と、い、一、一、也、一、也、
 傳、号、一、一、也、一、也、一、也、一、也、一、也、
 松、山、と、云、節、所、一、也、一、也、一、也、一、也、

るや痛す、業之をわく、廣之、好業、業傳
よとわす、い、揚、及、の、軍、一、て、却、へ、の、也、上、と
旬、於、の、こ、多、り、一、つ、か、あ、ま、上、方、勢、ん、や
至、治、州、を、先、遣、一、つ、り、由、ゆ、え、り、れ、い、よ、下、の
し、し、く、く、り、か、り、て、同、章、強、さ、後、所、と、定
勢、と、賦、さ、つ、り、一、つ、れ、り、い、

宮城野口番手 松田尾張方と向野女番手
於大倫東安房上総之國人於合之勢一百二十
湯平口 千宗新女番手勢八千

竹浦口 小除陸奥守成田下総守 壬午上総守

皆川山城方於合其勢一萬

大の如く三ヶ所は後所と接へ上方勢と成り
まろ程ありていりて入ぬらんやぬありて
のえいさ不知とてゆるやりよらんてなわくは
あまよ山中に城落まきと由云かひそめよ後所は
あまよ落人あてかくとやれんか田原とる
んやよや及小園八列建く氣と失ひ恐む
り多しよあ。置よわく山中と心よくよと息ひ
賊室と送んらん山中よりい又海をさし
て候よ。南吉。山。東。の。い。と。り。さ。ま。世。の。り

大徳記十一
一十
きとあり人新来のよし、あかへ〜と。さうと
らにおちげふらわが。あつあつの〜せり。と旁
勢の影ツヒタ。ふとと〜。さうと人懐シレヤウ
やるらん。五十万騎陣も山も第セツシヨあかへ〜
〜。あつらん。の〜。うか〜。さうと
て止らり〜。

信白世人多くをの威勢イハヒの〜。さうと
〜。あつらん。さうと〜。さうと〜。さうと〜。
あつらん。さうと〜。さうと〜。さうと〜。
さうと〜。さうと〜。さうと〜。さうと〜。

い〜。あつらん。さうと〜。さうと〜。さうと〜。
あつらん。さうと〜。さうと〜。さうと〜。
あつらん。さうと〜。さうと〜。さうと〜。
あつらん。さうと〜。さうと〜。さうと〜。

○小田原築城之事

お月下旬小田原よりと第松山へ出〜。防フセキ
勢セツシヨあつらん。さうと〜。さうと〜。さうと〜。
あつらん。さうと〜。さうと〜。さうと〜。
あつらん。さうと〜。さうと〜。さうと〜。
あつらん。さうと〜。さうと〜。さうと〜。

と申す。事うらと最とつし。い若うあつよ。廿
六万騎之勢。時の起と奉ひ。よ。落て。平。号。う
越。くれ。た。保。所。之。勢。一。支。も。あ。ま。お。月。朔。日
お。田。原。へ。近。入。ま。り。相。軍。を。い。づ。ど。の。も。云。ま。り。い。
垂。て。の。聲。を。め。い。し。あ。く。や。し。く。相。接。し。人。數。減
り。ま。り。け。ら。秀。治。に。家。康。の。の。勢。より。い。あ。り。
ま。り。し。ぬ。ま。の。ふ。ら。う。と。つ。つ。つ。先。立。給。ん。
と。も。し。ま。り。と。相。川。を。し。り。村。越。後。助。と。い。敵。城
と。う。有。し。よ。勢。け。て。山。下。に。陣。と。り。は。る。ぬ。の
より。一。軍。あ。ま。り。し。は。ら。案。と。案。ハ。是。子。出。陣。

取。り。た。お。ん。き。ん。や。と。謀。議。し。た。れ。え。は。こ。も。あ。り
存。し。て。お。ん。根。山。の。守。殿。子。備。を。固。火。け。ひ。つ
つ。大。軍。と。焼。せ。用。心。ま。り。し。り。り。り。お。月。二。つ。口。方
の。及。口。を。定。め。事。の。し。り。り。り。と。引。寄。は。せ。を
け。く。お。ん。と。か。ま。り。決。死。を。射。入。ら。し。入。懸。波。也
と。頼。し。案。よ。の。火。矢。を。口。方。し。射。入。決。死。と。良
角。し。り。は。る。人。初。め。け。ら。た。志。し。り。有。て。あ。ま。り。ま。り
う。ら。細。軍。に。城。中。し。も。し。ま。り。け。ら。や。あ。ひ。ん。つ。る
を。そ。し。く。時。を。合。せ。し。り。多。勢。あ。ま。り。や。さ
の。こ。揚。方。と。り。毎。日。お。精。掃。掃。は。ま。り。也。く

政宗リウ五月中旬ハルにハル陣ツル際ハルよりハルとハル是ハルて物
渡ハルりしハルはハルるハル所ハルにハルれハル。故中ダシ群ホウ徒キ記
しハル痛ハルけハルるハル所ハルにハル。吾輩ハルの血ハル書ハルかハルくハルし
去ハルりハル来ハルにハル挑ハル灯ハルの光ハルはハル地ハルの光ハル。五ハル月ハル圓ハルもハルの
こハルもハル故中ハルのハル上ハルにハルれハルるハル事ハルもハル海ハルにハルりハル。
さハルくハルしハル蟬ハル乃ハルやハルしハルはハルりハルとハルてハル人ハル々ハルとハルりハル。
さハルくハルあハルりハルもハル志ハルもハルもハルこハル人ハル々ハルとハルりハル。そハル氣ハル勢ハルあハルく
さハルくハルさハルくハルはハル勢ハルとハルりハル字ハル々ハルとハルりハル。
長陣ハルのハルくハルさハルくハル虚ハル説ハルとハル云ハルはハルさハルるハル丸ハル家ハル康ハル信
確ハル二ハル味ハルしハルあハルりハルてハルおハル田ハル原ハル故中ハルとハル内ハル通ハル有ハルさハルくハル。維

志ハルろハルとハル云ハルとハル人ハル々ハルとハルりハル。まハルまハルにハルたハルもハル有ハルつハルへハル陣ハルとハル云ハル志
ろハルいハルにハルあハルくハルよハルをハル流ハルつハルのハルりハルはハルらハルやハルしハルよハルまハルよハルとハルりハルて。
秀ハル吉ハルさハルくハル忠ハル節ハルうハルりハルよハルあハルせハルまハルつハルやハルしハル方ハルもハル多ハルくハルを
しハルはハル。いハルうハルおハルりハルしハルんハル。信ハル維ハル心ハル忠ハル康ハル信ハル陣ハル際ハルに
秀ハル吉ハル云ハル業ハル内ハルもハルあハルくハルはハル性ハル五ハル六ハル人ハル百ハル具ハルしハル不ハル計ハルの
あハルりハルてハルいハルうハルもハルしハルおハルりハルけハルきハルるハル所ハルにハルおハルりハルとハルりハル。
物ハルもハルとハル内ハル雨ハルのハル有ハルつハル。まハルりハルのハルあハルりハルしハルてハル二ハル三ハルと
まハル終ハルりハルしハルとハルさハルくハルあハルひハルしハル。此ハル一ハル幕ハルにハルてハル陣ハル中ハルと
しハルやハルりハルはハル群ハルらハルるハルさハルくハルしハル。おハルりハルしハルなハルまハルくハルなハルまハルくハル思ハルふハル思ハルふハル思ハルふハル。
きハルまハルくハルしハルとハル。さハルくハルさハルくハルやハルらハルるハル。あハルりハルとハルりハル。あハルりハルとハルりハル。

一後をさんたらくきくちりあうりもとてらる
かた 俗答も遊うこころくやきまわるとるひり
かた 所重のあつとわきかたり拍子と合するやう
まねし有一。寔より自れあう一や

評曰。秀吉公之格と大取之賢主よりきと
心せあふ。こころ拍子よあうんや。此人の勇甚
きくま。こころ素性うして。智のめとて。一の
と。何より。一の作ら。一と。拍子よ遠小りなる
りり。一せ。若く群疑を論じ。徳博と。創。然。如
は。字や。く。一。拍。ひ。一。九。に。中。に。信。長。公。と。及。ま。り。ま。る

○上列松枝く改之成徳人事

去程上村紫苑あつ利家日子息。服あつ利家、
率三万渡越後。改を。終へ。至開。東。素。向。人。と
ま。れ。ハ。強。雪。夥。く。余。を。と。り。け。一。道。路。自。由。を
ら。さ。る。よ。因。て。二。月。十。六。日。賀。列。と。立。濃。列。と。あ
キ。ッ。本。を。地。と。認。て。向。ひ。り。り。お。は。し。小。人。こ。よ。ハ。越。後。守
上。村。強。正。忠。景。勝。位。列。と。任。毛。利。河。内。守。真。田。原
五。郎。合。其。勢。三。万。六。千。利。家。と。大。將。と。一。上。列
本。校。に。改。を。打。圍。之。明。々。と。り。ハ。仕。事。を。付。あ。は。し
千。よ。の。評。家。と。一。軍。法。は。是。利。家。一。か。さ。ま。り。九

城主大さち遠河守息形口印も内の上り
 誓書あましく心軍^サ口んと初^サひけられ九^カ案^カ子
 お違^サ一^サ子か多^サ勢^サられくなま^サ一^サあのみを
 仕^サ部^サ一^サ付^サ入^サ子^サ勢^サてく^サべ^サく^サま^サへ^サ一^サと^サ城^サ中^サを
 守^サ固^サめ^サ子^サら^サわ^サぢ^サけ^サ始^サ終^サ難^サ拘^サ思^サひ^サ甲^サと^サ腹^サて
 降^サ人と^サ女^サ先^サ強^サ之^サ勢^サ子^サか^サり^サと^サん^サと^サそ^サ方^サ勢^サま^サ
 くれ^サ利^サ字^サそ^サう^サ吾^サと^サ息^サ慮^サ一^サけ^サら^サま^サ此^サ城^サと
 及^サ印^サな^サん^サ多^サく^サの^サ口^サ印^サを^サ降^サへ^サ一^サと^サ上^サ知^サる^サ
 と^サも^サそ^サ一^サと^サし^サ所^サ治^サ降^サま^サく^サと^サあ^サり^サ明^サり^サ城^サを
 降^サ取^サ先^サ此^サの^サ勢^サに^サか^サへ^サ八^サ列^サ城^サと^サ案^サ内^サを^サ治^サ

悉^サ降^サ取^サ一^サと^サ方^サ小^サ田^サ原^サ城^サ中^サ一^サ若^サ也^サ八^サ藏^サ田^サ下^サ総^サ守
 上^サ田^サ上^サ野^サ分^サ子^サと^サ神^サと^サ一^サ大^サ名^サ先^サ速^サ志^サ子^サあ^サひ^サ心^サも^サ妻
 一^サら^サく^サ一^サと^サさ^サり^サあ^サ一^サ然^サ男^サ城^サを^サ降^サ取^サ可^サ
 然^サり^サん^サ子^サお^サ極^サめ^サそ^サか^サり^サ接^サ一^サく^サお^サ調^サ人^サ勢^サを
 降^サ取^サ翌^サ月^サ三^サ月^サ十^サ日^サ城^サと^サ降^サ取^サ先^サけ^サ乃^サ降^サ子^サ并^サ
 世^サ案^サ内^サと^サ遂^サさ^サせ^サれ^サん^サと^サさ^サら^サく^サも^サ城^サ利^サの^サ
 忠^サ美^サの^サか^サと^サさ^サら^サく^サ一^サ案^サ子^サ守^サり

○ 松山に倭降参る事付八王古為城より
 松山之城主上田上野外、難波田園橋守本呂子舟
 渡守金子紀伊守山田伊賀守。此に長子城と新け
 とふそ力ん中田守子繁城一作り作り。その
 後前守村家松枝ら務と業田老として松山
 之城子推寄を其より先妻具ちと下こぬ子
 づら山ともし里とと意づきうん難物や思ひ
 かん。城口取之老を村家之陣へ傳へて隊人と
 たり。先証之由勢子加り、の指忠節之条。山田
 命に於て然るよしとひしてん本城二之丸をん御一
 也

つし。三之丸に流土の敷あ等を入おさて四人之老を
 三千之老列し、あぬ流先証之者尸々れん。
 村家之と同心な丸二之丸を下傳れ三之丸を
 四人之老のものとて妻子女をて入玉。先づけの給
 子らつて案内ちと。十九日民は全舟小條安有る
 民那の居城跡形の城子とて。色仕業を付。ら
 城炮を打入時為天地も揺るく計あり。沼田に城
 子獲能やちと城子なり。のをちと於此を説
 こあり。合我乃切と。上野勢の名をいへる。の
 子越守く笑あそり。困窮子也。了歴伏也

へ後難と難し。而後降人と女更し。んやと。
 子六人より家老子お後し。つれをたおれらんと
 て。つれを家老子同一。お松山より長難波田子
 等より付て。後し。んやと。是も後を徳元先強し。勢
 しかへし。守り。利家降し。つれを後し。之勢を尋せ
 づれん。五万騎は。成て。粟内走し。多し。一開八列を
 置し。横し。お後し。を。おし。志く。打ちし。け。味方
 に。好し。女ヶ所。後し。後し。後し。人。を。め。つ。重。利家。不
 田家。子。系。降し。此方。勝し。く。り。た。ら。る。や。ま。
 承。り。言。ふ。い。く。お。り。ん。を。威。思。ふ。お。後。小。ち。り。

ころん。利家と。高し。忠義。に。重。た。の。り。子。ら。ん。是。し。
 け。り。し。お。し。存。る。ま。い。海。唯。病。を。お。か。さ。る。こ。り。し。て
 有。ん。こ。り。い。う。あ。り。し。り。子。や。と。親。し。さ。り。方。子。付
 て。降。し。ら。り。て。お。後。お。り。て。と。度。後。お。り。あ
 ま。り。の。後。を。属。味。方。お。後。し。一。つ。り。を。お。後。忠。義。の
 子。後。就。七。八。ヶ。所。の。後。し。せ。め。て。一。城。に。碇。新。し。一。松
 切。し。一。軍。し。し。ん。お。り。と。お。り。し。り。あ。り。し。り。利
 家。親。し。さ。り。し。り。告。め。し。し。り。え。し。り。利。家。親。し
 け。り。子。作。世。を。ら。り。ハ。王。子。を。後。お。後。し。を。尋。る。ま。い
 ぬ。て。攻。平。志。接。切。し。り。首。を。お。後。し。と。お。後。し。

つ日女字は味下^ニの陣へ陣子^ニたり。秀吉云お
り、あやうしと後利家城へお^カのこさし
一城も不^カ難^キ由きたしつらうと承^カ海^ニは
気^キ象^シあり、本村常陸分七と来陣^ニりま^ニ子^ニ計
ひ^ヒ無^ク解^ルしつらう何^ニも保^ルめよと保^ル合^ニ
つらう、あやうし、利家我陣は是^ニしや
く、水陸^ノ道の^ノ前^ニ、^カと^カ降^ル人^ノに^カ城^ニへ七^ノ明^ノ口^ノカ
三日八^ノま^ノく^ノ城^ノより^カ推^カ察^ス者^ノ觸^ルら^ニり^ニ依^テて^カ大
道^ノを^カ強^ク河^ノを^カ上^リと^カ我^ノ分^ノ内^ニ難^ハは^レ回^ル本^ノ宿^ノ子^ノ合^ニ子^ノ山
回^ル再^ニ小^ノ橋^ノ上^ニ我^ノ方^ノより^カ難^ハ於^テ合^ニ一^ノ策^ノあり^ニと^カ我^ノ抽^ル

忠功^ノ所^ノ願^ニ安^ク候^ニやと^カ思^ヒた^レば^カ美^クし^ク刻^ニり^カ新
之^ノ馬^ノを^カ中^ノより^カ八^ノま^ノ子^ノ系^ノ陣^ノ一^ノ案^ノ也^ノ知^ラり^カ即^チ可
と^カ推^カ破^スし^カう^カを^カ我^ノ深^クり^カ一^ノ案^ノや^カる^カらん^カ本^ノ城^ノを
志^スて^カ不^レ知^ラる^カま^ノ思^ヒひ^ノの^ノま^ノう^カ首^ノ揃^テて^カり^カ陸^ノ奥^ノを
山^ノ筋^ノ入^レ城^ニと^カ時^ノ本^ノ城^ノと^カ接^シ候^ニ中^ノを^カ丸^ノと^カ中
山^ノ筋^ノお^カ由^レ候^ニ本^ノ筋^ノ一^ノ筋^ノ山^ノ下^ノを^カ曲^ル橋^ノと^カを^カ看^ル出
那^ノ分^ノより^カ取^リけ^テし^カれ^カる^カ本^ノ城^ノ人^ノを^カ勢^ノ山^ノ下^ノを^カ曲
橋^ノへ^カ押^シ入^レ候^ニ子^ノを^カ看^ル物^ノを^カ看^ル合^ニ也^ノ防^ル我^ノひ^カ思^ヒん
し^カ推^カつ^カお^カさ^カま^ノ川^ノ若^ク我^ノし^カつ^カ。其^ノ兵^ノの^ノそ^ノハ
名^ノ字^ノの^ノ流^ルま^ノん^カり^カし^カお^カう^カう^カ難^クお^カる^カら^ニり^カ。我

大田原 二 二十八

能守まはる孫の面と起し及ぶ不承の死を
 とどろくのれぬ面と居るま。和漢の所を
 命をいりて見よとやと歴こくちよ云つ。ほは推
 諸の用を命を殺してを殺すは死しし
 かり。かろくくくくく。某も何方孫の事おぬ。おぬ
 由はもくを組つけてく余孫の中をくくく。極運
 也。くくくくくく。某も何方孫の事おぬ。おぬ
 ころり。某も何方孫の事おぬ。おぬ
 一。名と宗とをくくく。某も何方孫の事おぬ。おぬ
 子居せし。親族まて年久くく。はく。

一。奥列山田京入城せられたる。生れに
 固く、画の用は。尚、くくく。安ん。くく
 物。くくく。多勢と見て。豈のくく。忠
 死と尚、くく。中まり。おぬ。くく。死
 物をくく。くく。孫子。先。くく
 名。くく。くく。某。くく。面。くく
 光。くく。文。母。乃。くく。の。くく。子。田。あ。くく。只。と
 後。くく。くく。くく。くく。くく。くく。くく。くく。くく
 たり。目。くく。情。や。くく。くく。くく。くく。くく。くく。くく
 け。くく。くく。くく。くく。くく。くく。くく。くく。くく。くく

大岡化上
 二二九

幸しくいぬ候に宿願をくハ信忠之切腹の時徳平
又と一殺し下り候し。漸東之のりれ候前
方利家来陣より。大さるると山下を破却
し打捕し首二方中作候一覽し。之を捕
りいしと云と云く。中之曲物へまきうりされ。初
め由物物候一筋あるに。めたる神よて下れけ
けい。う鉄炮も敵を引付候矢に。やうまを
し。くまがらうらうら。あはれ人数も人よあへ
る。利名小姓生よ十六名一番。し衆入能付し。
首捕て大音在衆と名衆より。あうし。及いぬ。又

百毒長天帝と云し。大毒より。つし。と。あは
し。二番。し首捕て利家父子をあへ捕まふる
ま。二番首に記し付し。と。有し。と。や。一番。大
音。草。茂。して。有し。衆。其。二。番。し。記。せ。り。と
て。一。と。辯。し。し。た。り。々。り。利。家。利。也。し。り。く。ま
つ。り。ゆ。か。と。南。毒。と。あ。う。と。活。ひ。し。氣。多。く。る。候
一。番。首。と。付。し。候。よ。り。え。ん。道。し。と。く。し。し。氣。味。甚。也
さ。り。と。各。人。が。り。あ。り。し。傷。人。口。大。音。ハ。今。此
利。也。し。切。當。り。し。ま。り。居。り。し。國。へ。取。寄
り。去。り。候。候。さ。り。と。く。し。と。せ。り。傷。事。し

初らんと見し森三名ナニ紫廻り志り有りて
家へ持来と〜とありと。

浦口雨森のうきと一蓋首子付く者一
を二子辞し〜き心申能お〜少〜
家古より大坂虎印の我首と捕〜
後乃争ひアキラ死シをも叫り〜
ひる〜とあり我先なり〜他〜
〜とあり〜とあり海雨森亡魂ウラコを
〜とあり〜或御の〜とあり〜
〜とありナシヨク死辱シヨクもあ〜とあり或甲カフトと

拾ひゆく首子甲と〜甲付の首と祀され
〜とあり〜とありの某と〜とあり
〜とあり〜とあり雨森がや〜とあり
と世まれありと〜とあり世とあり
うや角〜とあり〜とあり〜とあり
子カフトかえ有りよ。

本丸より〜核地盛ぬ〜が心奉勤クニニヒをわらけ
あひて〜とあり〜とあり落果ぬ系務の務
〜とあり不承〜とあり攻入け〜一人もあ〜
心安き〜とあり本丸入り〜中山助ぬ由

狩野一病いあまゝたひ実てかく隠と合せ太
 刀折一^{カケ}無接無入^カ川^リうま^ア寂^ハま^カく^カ隠^カま
 火とあ^カしてそ^カ我^リひ^カ離^カ合^カ聚^カ散^カ数^カ別^カも^カ及^カひ
 我^カを^カま^カく^カる^カに^カら^カな^カれ^カと^カい^カす^カま^カ人^カ御^カり
 りん^カも^カち^カや^カ人^カ種^カを^カま^カさん^カる^カも^カ益^カなり^カと^カい^カて
 き^カん^カと^カて^カ引^カ入^カり^カて^カ後^カ々^カ志^カつ^カま^カり^カ及^カり^カ考^カも
 只^カの^カ勅^カぬ^カ由^カの^カ三^カ百^カ餘^カ人^カの^カ者^カを^カと^カ違^カく^カ用^カす^カ旨^カ
 にお^カ高^カる^カり^カ取^カす^カ後^カ子^カあ^カひ^カ又^カ丸^カを^カ内^カへ^カ引^カ入^カり^カと
 利^カ家^カを^カあ^カら^カと^カ者^カは^カ一^カ大^カま^カち^カる^カの^カ中^カま^カあ^カの
 死^カら^カし^カせ^カと^カ志^カと^カ志^カ人^カを^カあ^カき^カり^カと^カい^カひ^カん^カ金^カ子

紀伊守小島升雅系ゆきま^カる^カ途^カ久^カく^カ云^カう^カる^カ也
 一^カ志^カす^カは^カと^カ引^カれ^カん^カ利^カ家^カを^カあ^カら^カと^カ志^カす^カは^カと^カい^カひ^カん^カ金^カ子
 る^カと^カ召^カ多^カ人^カと^カ一^カ人^カと^カ中^カ山^カ勅^カぬ^カ由^カの^カと^カて^カ或^カ者^カあ^カる^カ
 功^カ人^カの^カ免^カれ^カし^カ倚^カり^カと^カ志^カす^カは^カと^カ一^カ人^カに^カ大^カま^カち^カす^カ
 有^カり^カの^カ救^カを^カ先^カと^カり^カけ^カ佳^カ名^カを^カ思^カひ^カと^カあ^カら^カは^カの
 救^カ子^カ加^カつ^カわ^カ長^カ子^カ勢^カ理^カ之^カ胎^カ正^カ子^カあ^カ智^カ一^カと^カ志^カす^カ
 醫^カ乃^カ力^カを^カ得^カり^カ一^カ席^カを^カと^カり^カ申^カ候^カ也^カ友^カと^カり^カ申^カ
 有^カり^カの^カ一^カお^カり^カと^カ志^カす^カは^カと^カ一^カ人^カに^カ大^カま^カち^カす^カ
 無^カ類^カら^カ取^カと^カ見^カし^カわ^カ新^カく^カ六^カの^カと^カ志^カす^カは^カと^カ一^カ人^カに^カ大^カま^カち^カす^カ
 志^カす^カは^カと^カ一^カ人^カに^カ大^カま^カち^カす^カと^カ志^カす^カは^カと^カ一^カ人^カに^カ大^カま^カち^カす^カ

邪小ににるゝとて先めしむやをけり立乃
 者とひた方りくとし一集七歌て来んとなつら
 く〜々り此者中山の丸へ集門を懸よくと呼
 ばれ答毎者なり一令子もあて張切落ころ
 よやと思ひ門乃隙を斬破り入られぬぬ由
 の本あめケ所の疵成系つて〜うあひとく
 されよ尺申るハ筆子案にており〜ま〜いや
 う〜も尺申るあよ物ぬぬぬぬぬ二人ゆ
 六の妻一人所殺〜ぬ〜と腹を切く侍を
 う〜も〜と〜付よ〜お〜〜海〜〜う〜か〜

あり〜人〜〜金子案内あよけ〜〜ひ〜と〜
 う〜甲〜そ〜子〜持〜を〜〜〜〜〜
 子承いやとよ勘ぬ由ゆと物け〜人の使子系
 たりよ。自害乃やうと二入海ぬ存ぬ。せぬ〜のさ
 子おろ〜〜ゆり〜多〜ひ〜〜〜人〜らの徳とせ
 可ま〜つ〜せよと。誅め回よなり。

或曰。後代是物も四宮よ〜と〜なり〜。陸奥守
 子と〜〜一病と〜ぬ〜ひ。立身の後と書〜一係
 了〜一老也。そあ〜〜ま〜〜と〜付〜一人の云
 孝子ハ。奥列ぬし〜〜〜付〜〜と〜〜ある

姓とせしめてハ金部と取。後とせしめやま。
治利とせしめ。美多之孫^{シヨクチシケン}阮とせしめ。孫^{チキコ}理とせしめ。
く。孫^{シキ}理何事をせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
子^{ツチシノ}加り。孫^{シキ}理とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
武皇の孫ハ孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
孫^{シキ}理とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
り。孫^{シキ}理とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。

や。孫^{シキ}理とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
出たり。孫^{シキ}理とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
何方とハま。孫^{シキ}理とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
のら。孫^{シキ}理とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
山狩。孫^{シキ}理とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
後。孫^{シキ}理とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
備前。孫^{シキ}理とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
後。孫^{シキ}理とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。孫^{シキ}正とせしめ。
三十四

呼^{オモ}無^キ私^シ乎^カ天心。八王^{ハチノミチ}古^コ之^ノ謀^{マカ}と利^{トク}家^ケ一^{イツ}旦^ツに授^タ
^{ラフ}一^{イツ}作^{サシ}有^ユ家^ケ中^ノ之^ノ面^{オモ}く能^ス有^ル一^{イツ}九^ク何^ニ
^シ一^{イツ}あ^ハ細^コ所^ト一^{イツ}に回^ル。思^ス呼^フ持^チ

○武列^{ムツレ}所^ト形^{カタ}之^ノ謀^{マカ}之^ノ事^{コト}

新^{ハチ}形^{カタ}之^ノ謀^{マカ}主^ヌハ小^コ傳^{デン}高^{タカ}倉^{クラ}之^ノと云^フ一^{イツ}の氏^{ウヂ}以^テ之^ヲ令^シ予^ヲ
^チ有^ル一^{イツ}固^コ。南^{ミナミ}東^{トウ}隈^カ自^{ヨリ}遊^ユ軍^{クン}の^ノ之^ノめ^メ新^{ハチ}形^{カタ}予^ヲ有^ル
一^{イツ}と。後^{ノチ}安^{ヤス}也^{ナリ}。打^{ウチ}字^ジ謀^{マカ}計^{ケイ}と回^ル一^{イツ}。尚^{ナカ}安^{ヤス}也^{ナリ}
一^{イツ}つ。勢^{セキ}入^イ先^マ進^シ予^ヲ并^ニ也^{ナリ}。そ^ノ力^{チカラ}入^イ山^{ヤマ}下^ノ之^ノ事^{コト}
龍^{リウ}也^{ナリ}予^ヲを^シあ^ハく^ク後^{ノチ}形^{カタ}之^ノ謀^{マカ}之^ノ事^{コト}一^{イツ}。其^ノ後^{ノチ}武^{ムツ}列^レ
一^{イツ}下^ノ一^{イツ}到^ツ一^{イツ}之^ノ病^{ヤマト}予^ヲ死^シ之^ノ事^{コト}也^{ナリ}。

○小田原^{コダワラ}回^ク者^ノ 亦^モ思^フ之^ノ謀^{マカ}事^{コト}

恐^{オソ}之^ノ謀^{マカ}主^ヌ成^{ナリ}田^タハ也^{ナリ}。一^{イツ}進^シ款^ケ予^ヲす^ル之^ノ倚^{ヨリ}り^テ之^ノ毎^ヘ
^レ自^レ秀^{ヒデ}逸^{イツ}之^ノ向^{ムカ}之^ノ記^キ一^{イツ}付^ツ。宿^{ヤク}巴^ハ法^{ホウ}務^ムへ^テ使^シ之^ノ上^ノ
也^{ナリ}。其^ノ也^{ナリ}予^ヲ之^ノ將軍^{サマ}乃^ハ右^{ミダリ}軍^{クン}之^ノ有^ル之^ノ也^{ナリ}
中^{ナカ}山^{ヤマ}故^コ也^{ナリ}。回^ク一^{イツ}之^ノ事^{コト}也^{ナリ}。一^{イツ}進^シ之^ノ事^{コト}也^{ナリ}
第^{ダイ}一^{イツ}之^ノ事^{コト}也^{ナリ}。一^{イツ}進^シ之^ノ事^{コト}也^{ナリ}。一^{イツ}進^シ之^ノ事^{コト}也^{ナリ}
回^ク下^ノ之^ノ事^{コト}也^{ナリ}。一^{イツ}進^シ之^ノ事^{コト}也^{ナリ}。一^{イツ}進^シ之^ノ事^{コト}也^{ナリ}
之^ノ事^{コト}也^{ナリ}。一^{イツ}進^シ之^ノ事^{コト}也^{ナリ}。一^{イツ}進^シ之^ノ事^{コト}也^{ナリ}
何^ニ之^ノ事^{コト}也^{ナリ}。一^{イツ}進^シ之^ノ事^{コト}也^{ナリ}。一^{イツ}進^シ之^ノ事^{コト}也^{ナリ}

持一封伸寸志了四年之新温河了其心也
 既之至文以甚深作就中開八列氏政家入
 之謀之七八ヶ所或後成或成降人了然之
 其成國莫之也眼前以事為先社之志
 業既不絶昌不尚在唯之寸思秀吉所
 前之系臣執了之系而後安所人の志被家
 内意尤也委曲使志の好善之之系不道流
 竟思地謹云

六月六日

山中政守

成田下総守致

人之内也

中へ去く寄通へ使志の業了りし則つたりとん心
 無意成向の陣而系此方かくと云入りて成田
 志子親向へ口上へ致す所也。此より上とある人へ
 随此深累社之者多しとお察し一業先祀す不
 やりし也と書と思ふ也一返書す
 内向状へ趣原に才難家格上所ありし故に宣
 極賞入外無他意ありし交の法使の口上へ系
 止留致の上は謹云

多の友念日

成田下総守

山中守殿 回奉

少政守守殿と抄紙一々れハ用日ぬりかゆ様
 今一より一正作々々ハ小田原様よりまゝ一斗
 是よりとて一察度々々と一得りもハ成田
 子對一担内通るると一なり。急降人と
 後一命一抱之方内通るると一中ハ成田より
 一と何と一誠之と一降人と一密通るると一
 そつ一若一也一と一しや一と一有一り一
 少政子及し一り一と一り一小田原守殿中
 一

一不和の政と一して兄一弟と一難一ひ一弟一兄と
 向一か一り一り一同じ一子一兄弟一り一り一不
 後一平一成田一守一勅一氏一政一不一審一思一り一
 後一子一有一と一し一使一と一立一た一れ一病一ま一り一
 一り一使一及一子一三一三一後一を一子一心一と一愛一
 一融一方一り一告一知一と一り一我一を一の一為一後一と一
 一之一實一否一の一お一尋一と一あ一な一く一使一と一つ一
 一不一業一く一万一と一な一ハ一醫一師一安一清一と一お一保一
 一成田一守一殿一と一作一と一り一衆一を一な一思一て一故一
 一打一團一之一故一借一は一左一當一様一子一務一の一法一率一を一
 一

安子^{サイ}攻^{アタ}殺^{コロ}しん^シの^ノを^ヲ討^{ウチ}ふ^マり^シの^ノ何^{ナニ}や^トも
 秀^{ヒデ}吉^{ヨシ}の^ノ家^{イヘ}懐^イ偏^{ヘン}の^ノを^ヲ由^ユ山^{ヤマ}中^{ナカ}山^{ヤマ}城^{シロ}方^{カタ}へ^ニ逃^{ニゲ}
 び^シの^ノ有^{アル}の^ノま^マり^シの^ノ成^{ナリ}成^{ナリ}田^タ下^カ城^{シロ}後^{ノチ}に
 口^{クチ}方^{カタ}の^ノ城^{シロ}を^ヲ付^{ツキ}氏^{ウヂ}攻^{アタ}る^ト廻^{マワ}り^シ然^{シカ}れ^ド山^{ヤマ}上^ノ
 に^ニ大^{オホ}志^シ尉^{ウヂ}と^ト名^ナを^ヲ取^トり^シて^シ七^{ナナ}八^{ハチ}子^コ此^{コノ}勢^{セキ}と^ト門^{カド}を^ヲ攻^{アタ}
 め^リし^レと^シ到^イり^シ城^{シロ}中^{ナカ}危^{アヤシ}き^ト月^{ツキ}に^ニ流^{ナリ}日^ヒに^ニ城^{シロ}
 急^{イサ}に^ニ攻^{アタ}め^リ成^{ナリ}す^レ

○岩付の城

武^{タケ}列^{レツ}岩^{イハ}付^{ツキ}の^ノ城^{シロ}主^{ヌシ}小^コ條^{ジョウ}十^{ジュウ}郎^{ロウ}
 氏^{ウヂ}直^{チキ}の^ノ子^コ丸^{マル}と^ト八^{ハチ}海^{ウミ}
 兵^{ヘイ}志^シ尉^{ウヂ}三^{サン}之^ノ丸^{マル}と^ト八^{ハチ}媒^{マエ}尾^ビ下^カ総^{ソウ}兵^{ヘイ}片^{カタ}思^{オモ}原^{ハラ}大^{オホ}は^ハ

射^イの^ノ新^ニ也^ニと^シて^シ今^{イマ}の^ノ身^ミハ^ハ率^{ソウ}三^{サン}子^コ條^{ジョウ}の^ノ由^ユ原^{ハラ}へ
 あり^シに^ニ今^{イマ}の^ノ城^{シロ}の^ノ及^キ平^{ヘイ}方^{カタ}後^{ノチ}原^{ハラ}を^ヲ打^{ウチ}向^{ムカ}ふ^ト人^{ヒト}と
 して^シ淺^{アサ}姓^{セイ}原^{ハラ}の^ノ村^{ムラ}常^{ジョウ}陸^{リク}女^メ本^ホ田^タ中^{ナカ}勢^{セキ}大^{オホ}尉^{ウヂ}於
 合^カを^ヲ勢^{セキ}一^{イツ}葉^{エフ}條^{ジョウ}六^{ロク}月^{ゲツ}廿^ニ三^{サン}日^{ニチ}の^ノ朝^{アサ}時^{トキ}と^トな^リし^レ
 一^{イツ}の^ノ人^{ヒト}町^{チヨウ}と^ト破^ヤれ^シし^レと^シ媒^{マエ}尾^ビ下^カ総^{ソウ}兵^{ヘイ}片^{カタ}思^{オモ}原^{ハラ}
 大^{オホ}は^ハ志^シ尉^{ウヂ}小^コ將^{ジョウ}と^トな^リて^シ張^テお^シ殺^{コロ}し^レし^レ原^{ハラ}の^ノ本^ホ田^タ
 平^{ヘイ}八^{ハチ}郎^{ロウ}
 後^{ノチ}号^{ゴウ}の^ノ女^メ陸^{リク}守^{ウチ}
 中^{ナカ}勢^{セキ}大^{オホ}尉^{ウヂ}也^ニ
 行^{ユク}兵^{ヘイ}十^{ジュウ}六^{ロク}葉^{エフ}而^{シテ}之^ノ不^フ振^フ鐘^{ショウ}
 を^ヲ打^{ウチ}入^イく^ト攻^{アタ}め^リし^レの^ノ媒^{マエ}尾^ビ片^{カタ}思^{オモ}原^{ハラ}を^ヲ無^ム隠^{カク}る^ト取^ト
 り^シし^レ一^{イツ}旦^{タン}七^{シチ}不^フ引^{ヒキ}返^{マゼ}鐘^{ショウ}を^ヲ舍^シて^シ推^{オシ}つ^ツ推^{オシ}進^{シメ}つ^ツお^シ殺^{コロ}
 傷^{ケガレ}を^ヲま^シら^シく^トな^リし^レ原^{ハラ}の^ノ本^ホ田^タに^ニ新^ニ子^コ一^{イツ}と^ト

こ子勇んてとつとあこ入くれと痛くもや心ん
 剛子カガをとちた媒庵とよハなよう〜建にたり
 片足ハ痛手あま〜こあをさつ果ぬが五人討
 死せ〜のう〜〜こよ〜誠マコトに誠小共た引
 引ヒキこ見えよあり味方利子あて付入よ〜こ
 三未産之と承討子と志首三平余討捕秀名云
 へ物也をさ上〜なれん誠感マコトの方由也とけり
 あり〜こ丸と取〜息イキをとられとせあ〜しと
 ち〜あまよ侍通〜〜人のもいカガと上海系カウサセと
 清誠コヒとおほ〜一命をゆつぬ山田系新誠也

一志の子母あ子号ま〜〜こ丸子入番と付あしを
 利。

評向岩付こあ子をあ〜ま百河色細谷ホシノと
 三人之宿先有。何七由田系へめ〜つ里系誠五侍
 連あ共来ハ由か以ま〜す言あをを返〜誠マコト
 子わ〜り我甚つ〜う〜〜のた。猶兵あり乃
 急キウけあ子乃〜んが〜と愛〜よ〜と本丸
 をほ〜つ〜お〜あ〜〜〜〜〜は淨通ハ膽ノ
 衆主口以寵快通テウクワシ好所コトヨク心乃控ケツておのれの系ケイ
 と前と惚トホ也。此小人と〜あ〜お〜十元子知チあり

法率乃と多く出^{イテキ}来^ル毒虫といふ一^ニ多^クあり
 ハ王^{イナ}子^{ナリ}落^リぬ^レ子^コ固^クて生^イ捕^トれ^タ多^ク有^リしと秀^イ吉^ト
 由^レ中^ノ津^ノへ^シら^ニ百^ノ歩^ノあり^ニたり^シ陸^ノ奥^ノを^シ率^ニこ^ノ子^コ五百^ノ有^リ
 舟^ノ之^ノ勢^ヲ心^ヲ回^シ京^ノ落^ル敵^ノ有^リ一^ニ法^ノ率^ノの^ノ父^ノ母^ノあ^リ其^ノ船^ノ
 五六^ノ艘^ノの^ノ也^ニ山^ノ田^ノ原^ノの^ノ沖^ノへ^シと^シ遊^リり^ケり^シ海^ノ子^ノ乃^レ
 後^ノ亦^レ備^ヘく^シ一^ニス^レバ^モ其^ノ勢^ヲと^シて^シり^シ皆^ク鉄^ノ
 炮^ヲと^シて^シ中^ノへ^シ船^ノ中^ノ子^コを^シて^シり^シ何^レも^レ八^ノ王^ノと^シ
 其^ノ事^ヲり^シり^シ一^ニ船^ノり^シ一^ニ吐^レ白^ク赤^ク三^ノ口^ノ落^ル敵^ノ子^コ付^テ
 之^ノ敵^ノに^シ箭^ヲと^シ付^テり^シ一^ニ某^ノ之^ノ父^ノ母^ノ某^ノ之^ノ妻^ノと^シ二^ノ百^ノ
 人^ノ計^ノの^ノ保^ノ名^ノ実^ノ名^ノと^シ呼^ビて^シり^シ其^ノ名^ノ某^ノ一^ニあり^シ

可^ク便^ニて^シ呼^ビ少^ク也^ニと^シて^シ得^ル又^ニ子^コ落^ル七^ノ付^テと^シ急^ニこ^ノ傳^ヘ
 船^ノ進^ムよ^クと^シて^シ鉄^ノ炮^ヲと^シり^シけ^レり^シ志^スる^ニて^シり^シ
 有^リつ^テ其^ノ能^ヲ能^ク似^テる^ニ所^ヲも^レ其^ノ名^ノ某^ノ一^ニあり^シた^リた^リつ^テあ^リ
 何^レも^レ無^クし^テ其^ノ許^ヲ見^シし^テ何^レも^レ行^クり^シり^シい^ハん^トお^しと^シ
 子^コ敵^ノり^シ一^ニあり^シ中山^ノ抄^ノ部^ノの^ノ船^ノ種^ノ一^ニ房^ノ首^ノと^シ呼^ビり^シ
 入^リ船^ノ二^ノ人^ノ子^コ持^テ也^ニ中^ノ山^ノの^ノ船^ノ名^ノ持^テ其^ノ名^ノ某^ノと^シ呼^ビり^シ
 也^ニ又^ニ子^コ對^シる^ニと^シ呼^ビり^シす^レり^シ何^レも^レ其^ノ名^ノと^シ呼^ビり^シ
 一^ニあり^シ也^ニ相^シへ^シ八^ノ王^ノと^シて^シ其^ノ名^ノと^シ呼^ビり^シ
 つ^テ其^ノ敵^ノ之^ノ法^ノ率^ノ此^ノ一^ニ張^ノ子^コと^シて^シり^シ父^ノ母^ノ妻^ノ子^コ
 等^ノと^シ敵^ノ津^ノに^シ生^イ捕^トれ^タと^シて^シり^シ飛^ビ子^コあり^シ一^ニあり^シ後^ノ所^ノ

之故書しゆしを勤^{ツル}中一々れどつては此上高
 成^セ子^ノ正^ノ作^レ付^ルはりんた^ニ父母^トを捨^テて^ハ心^ヲ生^クも^モ申^カ
 繁^ニち^シと^シて^ハと^クと^テ歎^キさ^シつ^テ宿^ノ宿^ヲ持^ツる^ルを^モし^ル
 了^レ。園^ノ別^トも小^ノ姓^ノ五^ノ六^ノ人^ノを^モ祈^リま^シて^ハ後^ノ亦^トと^テ園^ノ也^ト看^ス
 りたりお此城^ノ中^ノは^ルふ^シま^シり^ハ中^ノ之^ノ勢^ノ也^トら^ハ
 つ^マま^シく^シく^シる^ル所^ノ也^ト。又^モ若^ク付^テ落^ク城^ノノ^由爲^ス京^ノ京^ノ
 衆^ノ射^トと^テ志^ヲ來^シて^ハ必^ズ勝^ル十^ノ百^ノ也^ト。親^クく^シ寄^リて^ハ若^ク付^テ
 城^ノを^モた^シめ^ル落^ク城^ノ一^ノ所^ノ上^ニハ^シて^ハ九^ノ子^ノ拘^ル一^ノ子^ノ也^ト。
 おん^ノ一^ノま^シり^ハ某^ノの^ノ父母^ノを^モ何^レ也^トの^ノ代^ノ某^ノ母子^ノに^シ
 丸^ノを^モ子^ノ書^トと^テ付^テ是^レ有^リ一^ノあり^テ又^モ誰^トに^シ討^テ死^スぞ

此ハ降^ル人^ノの^ノ言^ヲを^モり^テと^シ勢^ノ也^トを^モ志^スと^シる^ルに^ハつ^マま^シ
 を^モつ^テう^シめ^ル一^ノむ^シ志^ノハ^シ多く^シ。悦^ビ志^スハ^シ降^ル人^ノと^シて^ハ
 親^ノ族^ノの^ノも^シり^ハ一^ノに^シて^ハと^シけ^ル所^ノハ^シ返^ルる^ル所^ノ也^ト
 り^ハ心^ノの^ノり^ハこれ^ハ一^ノか^レあ^リハ^シり^ハん^ノり^ハあり^テと^シて^ハと^シて^ハ
 降^ル人^ノに^シたり^ハ。十^ノ百^ノの^ノ勢^ノ也^トなり^テ又^モ。
 一^ノま^シり^ハ一^ノま^シり^ハと^シて^ハ日^ノ某^ノの^ノ志^ノを^モり^テは^シ
 か^レら^レぬ^ルも^シり^ハ一^ノま^シり^ハと^シて^ハな^らば^シ色^ノは^シた^レん^ノ也^ト
 こ^ノの^ノら^レる^ルも^シり^ハ一^ノま^シり^ハと^シて^ハ上^ノ勢^ノに^シて^ハは^シ
 て^ハは^シや^レく^シ人^ノを^モり^テは^シる^ルも^シり^ハ同^ノ也^トなり^テあ^リ
 たり^ハや^レと^シて^ハ一^ノま^シり^ハと^シて^ハな^らば^シ色^ノは^シた^レん^ノ也^ト

一^ノま^シり^ハ一^ノま^シり^ハと^シて^ハ日^ノ某^ノの^ノ志^ノを^モり^テは^シ
 か^レら^レぬ^ルも^シり^ハ一^ノま^シり^ハと^シて^ハな^らば^シ色^ノは^シた^レん^ノ也^ト
 こ^ノの^ノら^レる^ルも^シり^ハ一^ノま^シり^ハと^シて^ハ上^ノ勢^ノに^シて^ハは^シ
 て^ハは^シや^レく^シ人^ノを^モり^テは^シる^ルも^シり^ハ同^ノ也^トなり^テあ^リ
 たり^ハや^レと^シて^ハ一^ノま^シり^ハと^シて^ハな^らば^シ色^ノは^シた^レん^ノ也^ト

さうくまへ本丸をさるとおつて
 ちんちん丸をさるとおつて
 つくば丸をさるとおつて
 やま丸をさるとおつて
 一おらんとおつて
 あつておつて
 ちんちん丸をさるとおつて
 まつておつて
 たうふまをさるとおつて

ひあつておつて
 あつておつて
 らつておつて
 ちんちん丸をさるとおつて

ちんちん丸

ちんちん丸

ちんちん丸

ちんちん丸

さうくまへ本丸をさるとおつて
 ちんちん丸をさるとおつて
 つくば丸をさるとおつて
 やま丸をさるとおつて
 一おらんとおつて
 あつておつて
 ちんちん丸をさるとおつて
 まつておつて
 たうふまをさるとおつて

と云ふと藤城の事よく又仔細に申すもよく
堪らぬあつれあつれまのよはくはつり十の法に
くと藤城の神思通一氏直子孫らるる高城
高城より改改之とくまう受其の唯宗藤城
防陣一走入て城と海一ありて宗藤城之法
片物あるれあつれまのよはくはつり十の法に
片物あるれあつれまのよはくはつり十の法に
片物あるれあつれまのよはくはつり十の法に
片物あるれあつれまのよはくはつり十の法に
片物あるれあつれまのよはくはつり十の法に
片物あるれあつれまのよはくはつり十の法に
片物あるれあつれまのよはくはつり十の法に
片物あるれあつれまのよはくはつり十の法に
片物あるれあつれまのよはくはつり十の法に
片物あるれあつれまのよはくはつり十の法に

○ 松田尾張守謀多う事

此尾張守ハ代々小條の長とて。其勢あり有條。
威蓋八列富甚洋溢一。あつれまのよはくはつり十の法に
系新六郎ハ國忠と云ふ。二男松田正徳ハ忠義之志
高く之男原之市ハ字之曉一。あつれまのよはくはつり十の法に
在子傍也。心もゆき艶一。あつれまのよはくはつり十の法に
う小條一仔細に申すもよく堪らぬあつれあつれまのよはくはつり十の法に
と深也。松田思也一。あつれまのよはくはつり十の法に
ゆきまのよはくはつり十の法に
と小田原一城子也一。あつれまのよはくはつり十の法に

二上秀吉と云々針策を敷き子爵武勇ハ翰行
 かの者わかれ中へ運送同く一三坊も思ひ
 終らる。我一人を以て七を給する人へ城久
 大長方へ後秀吉と云々一入んと思意一六月
 八日其の頃使れと云々入去る久大を別と云
 竊ひゆくれば。是天之興る亦之幸也。我を以て
 ひくは御互お摸永代可免の之方能く計ひ
 御申の由ある事固て及返り方ぬ
 秀頼并御使之口より越に御下と被露申
 忠告一之未収思召作。御之御互お摸永代可免

按助秀作。深し極而分別する。松田の等々。其
 所由也。此より御申の御越に思惟候云

六月八日

熊平の名字ありて

松田五郎と云々松田安法之思ひを感得。二男
 なる知と申候。御申の御越に思惟候云
 政氏直某子對一。若くは御申の御越に思惟候云
 以不後や。子ら申掛はつる事内へ。その事も存
 知之候。御申の御越に思惟候云
 一也。然る事送之。思ひ立し事。其の事も存

とお一々れもそまけるなる如き後とらんく
 と家一甲けりや。後力ハ水際家代と長長く
 手右之地を路一政道とて孝子孫ハ一門一族
 其津と系つて。於開八列徳とおり。まき
 作。假令無縁。後根有と云々。此節ハ全義子此る亦
 也。新ハ思名海くれ可成らんと備一て。後陸考面
 同七なる身。実子云乃。案もあふ。此上ハ自害
 せん。しるおハ。一之。版。義子。を掛一。原。を。た
 る物。お。人。け。て。様。子。思。名。入。所。ひ。あ。え。不。及。其。能。
 同。し。甲。係。系。法。必。成。安。ん。一。お。ん。一。ま。る。と。十。日

まてハ。其。義。子。甲。一。り。補。う。や。た。る。如。此。義。子
 甲。一。ゆ。重。ハ。主。君。一。の。不。忠。不。同。列。文。一。の。不。孝。中。や
 見。ん。く。や。あ。く。ま。一。ガ。セ。り。か。二。と。重。重。思。ひ。取
 ひ。形。勢。と。危。険。考。も。不。審。く。思。ひ。な。り。同。月。十
 日。の。後。名。子。並。京。新。六。節。二。男。社。田。江。馬。三。男。陸
 比。部。内。在。り。と。又。丈。田。比。地。当。り。養。育。一。了。て。
 止。き。庭。一。呼。入。衆。と。所。法。一。と。後。此。庭。中。何。を
 不。適。四。中。と。凡。及。わ。是。ハ。入。寺。の。そ。一。く。思。あ。る
 こと。を。新。義。所。ま。の。云。か。ぬ。興。を。し。て。若。是
 凡。為。ら。る。り。や。角。ハ。被。甲。け。り。と。思。ふ。所。に。何

七葉一て尺以ハ。此葉故之為新。二百ハ出まゝ一と
と思ふ也。その子細ハ成田下流等ノ輩勅之ヲ外辱と
之をたゞ之をのり力之上乃之と出まゝ一と下之
心名隔子ハ之何れ也。是ハ擲手之太形ヲ禁禁
有別宗謀討といハ。此ヶ取之故主と秀吉云之
幕下子屬一又ハ武常之功と勵一ハ王云之
城と及平一友とハ尚成酒堂之神一不笑に
しり。其故之面ハ疑之ハ甚増起一。尚家威
之思外多るく一。某一人忠義と云。門一族之
父母妻子等一と一時ハ亡さんす。七口皆不許遂之

と全徳字を教ひんと早しかり。此葉長息哉
中書地田三乃事ハ耐堪久大云ハ勢也。某丸二の
入之新ハ極つて一。此を嘗て之を成以て之
也。乃之助中乃之葉を迄尸度思ハ。此子始て
後合有。一日七八日。昨日と亦不成就日とて。お
中一ハ。新ハの葉を成也有。一。人ヤと謀
一。つと。尾列同心一。十七日之葉ハ極なる。
此の如後示ハ肝要なる丸なれ。此の如
志之ハ。忠義と云。一。此何事ハ。七不おや。之
盡之。夫等と多く。白く。つり。た。た。此の如

足甲本丸を左しとありてしるれは事ぬ
そ是是是是は入るて十字官定之割に本丸へ忠
入氏政良直子にありてしるれは事ぬ
あふ下にたわてしるれは事ぬ
んと定くそ物事しり定め斯てしるれは事ぬ
ん。又送るて金に依事急し可有治所を案
め給是に石百ありしりんやとて。又そのの保宗へ
海子たり氏政しり十字ありしり危治所方へありて
ぬる方候とてきりりてぬる。と。案定
奥より再は書来と候志やして。敵方よりそ方より

送心を通し立。是は池田塔波等三人の勢とありて
へ明後在りしとありて。某とありて。切腹せしりんとて
る由内通有しり。そは何ありてしるれは事ぬ
とありて。一時着りやうい。そ古し。一武田信玄前
地へ物さしり。これ時。我送るて。合信と入現有
る由敵方より。名を入。密にせしり。と。案定
在某人等と。被言。是は。そ。常し。聊不存あり
ゆ。と。以。同者。之。新なり。と。隙。し。り。時。也
と。度。は。た。し。忠。義。と。申。し。初。也。た。る。そ。と。常。し。直
使。り。せ。し。り。と。松。田。心。腹。之。城。中。そ。の。保。宗。と

方乃くせしめておとあしきく痛まむ
家物そとて。照故漢後守片桐東市正とす
う一附至下之狼藉をほしとす。おせしむ
憲安堵之思いと成をのりさるくしなり
ア〜也

○氏政氏照兄弟切腹之事
哀乎痛乎。感者必哀之。翌日七日まてん。故
萬騎く〜して有〜のど日引久七月一日

原安清肝の完し。後世に日教也。是時
と信有さゆ。おし越て。用白敷作けり。
と夜是す。あす方孫家あり。七。小保家と
お果たあす。有さう。おし。氏政以下志く。ゆ
ん。魚ての。云。案。七。空。一。さ。子。似。り。氏政氏照。ハ
切腹。を。氏直兄弟。の。お。助。方。家。原。ハ。氏。お。漢。ま。り
ま。せ。ハ。を。直。一。さ。信。り。子。を。信。由。子。付。る。檢。使。と
そ。宮。ら。進。け。る。お。し。一。り。十。日。之。後。石。川。信。家
守。家。原。ハ。一。り。林。原。ハ。一。り。大。橋。信。一。て。安。清

一
二
三
四
五
六
七
八
九

軒り宅子ありとそ有後と云かさん七痛りく
思ひ何うし一祈と氏照とと推察^{イサツ}所水と味^{イホヒ}と芳
情ありよと。いんせうしうえ。いりよと強^{ツル}こと。成之を
とと強^{ツル}しとやうよと何とせしりたりやえ何
あると何と。つぐくそけいけし進る所。

小桑た京大吏民改

面うの折かつね月七胸典^ニ霧と
ととひりりらふ秋乃夕風

同

家母いま清ややいのよおもしりあ

穴^{クワ}よりとありくううり海^ミ進こ

冬身陸奥の氏照

とて乃清中^{アタツキ}くわ生れ来て

もとのまゝりふかつ所^サなるま季

お世のつと切腹と形勢^{アサキ}はすう小條家代^{サタ}お清

有^レあるうれと息と進^シて。殊^ト務^ム子七心^コり進

又誰と煮^ユふ成んととと煮^ユてち^クる煮物^ニよせ

あまこと。銘^メ心^シ腑^フ々^クり。あ人を面と考^カ考^カる未^ミ急

口^クは挿^サ来^キるううと。不忠^フ天^テ氣^キ志^シのうりまれん

洛^{ロク}る度^ド持^チ子^シ掛^カ墨^スのう^ウ方^ハ之^シ田^デ治^チ部^ブか^カ角^{カク}子^シ致

作付くわあり

或曰小糸せ八ヶ園や威い甚しい厚うりりりとと扱あは
ふふ。氏政曰人々た見み才さい實じつ息い也やああままくく有あり
ああままくく黒くろ子こ尚なほ一いっ大だい長ちやう七しち多たくく。一いって
不ふ足そくるる身みとといいふふしし極ごく多た政せい秀しゆ者しやももいいふふ。實じつ
息いひひととりりももくく。連れん後ごととああくくてて。百ひゃく日じつり
とと不ふ滿まん一いっ期か之ちりりああままりり秀しゆ者しやももいいふふ
ららんんのの傍たうら人にん曰い小せう條じょうをを手て持もちち起たりり。一いっ不ふ思し也や
或たくく不ふ用よく武ぶ命めいヲらいい小せうのの能のう能のう自みづかららくく

小田原せうでんとと傳でんはは四しややああままりりにに。本ほん田でん中ちゆう務ぶのの傳でん作さく付ふけ
兵へい部ぶがが楠くすのぎ本ほん式しき部ぶ大だい將しやう也や。くくてて。同どう方ぽうのの氏うぢ貞さだ三さん種しゆ山
へへ上かみりのの甲が方ぽうをを圍いてて。然しかしし一いっつつももいいふふ小せう糸いとは
流りゅう軍ぐんのの同どう方ぽう者しや老らうよよにに。招まね回わいるる船ふね大だいききをを。臨りんのの元げん
内うち幕まくらららてて。大だい将しやう孫そん兵へい部ぶ尉じ余あ。田でん大だい膳ぜん亮りやうももいいふふ。
くくささ大だい。三さん千せん人にん。森もり下したくく三さん万まん人にん。是こゝろろ。然しかしし并ならびび軍ぐん固こ
守まもるる。至いたりりまますす。無な事じ。亦また被ひ傳でん付ふけりあり

徳田とくでん信のぶ之の志し大だい。五十いそ人にんをを内うち介けするる人にんとといいふふ。
思おもひひゆゆりり。一いっにに。必かならずずず。此こゝにに。秀しゆ者しやももいいふふ。大だい心しん中ちゆう。家いえ
一いっ日じつ之の一いっ。

三岐山よりして横内なる人ぞ外はさうかへ
 るも其不察は又といひ下り有り久代直井
 信ら人も思ふ外なる名是るかとおとす
 その茶の露一山と云ふ所のいづれ日域に
 渡すと此様土子たつたにたり時節は是の
 神つてむと云ふと思鶴中こりとおろよを
 えけちとありしうて天正十九年辛十月十日
 三岐山に降り外なるつよまふる心と痛く
 へりあり天正山よりきて慰の事り方徳成
 出子同て下山へ寒者氏三の道供えきたま

て甚快つて名酒をむき一日を送る所供
 下いかめ時とわたりたり。此の道は二月五日
 大坂へ就る百歩織田幸直といふに在り白米子
 儀そ介十五程つて思鶴つて久野のま
 子立廻るむらうと云ふ子秋葉菜と唱ふ
 疾くいふと云ふと云ふと云ふ。何と云
 臆月始く清城へら百歩清城は成程は
 道の上よ。其まは西園二ヶ所可成程は
 心作御りありしうてかへ程終り能成程
 かし三十三宗を始し一終りしひり

かりて先陣とありて人々を制して置く
 まり。一は石を病と云う。只と云うて四日
 人鬼ナニカチと云う。九と云う。敵と攻捕んと思ひたり。然
 るに花列供と云ふは射而してゆく。柳病氣と云う
 云う。敵一々ありて八月二日東軍とありて
 甲一十隊あり。花原を侵す。先軍と云う。と云う。先
 陣を為生カニシなり。確タシにくと云う。さう人々を先
 と向コトハ一々ありて。花原を先軍と云う。向コトハありて
 一々ありて。向コトハありて。向コトハありて。向コトハありて。
 集七日先軍と云う。向コトハありて。向コトハありて。向コトハありて。向コトハありて。

一うかむ。先軍と云う。只打て。向コトハありて。向コトハありて。向コトハありて。向コトハありて。向コトハありて。
 と立下知して。人々を制して置く。只と云うて四日
 まり。一は石を病と云う。只と云うて四日
 人鬼ナニカチと云う。九と云う。敵と攻捕んと思ひたり。然
 るに花列供と云ふは射而してゆく。柳病氣と云う
 云う。敵一々ありて。八月二日東軍とありて
 甲一十隊あり。花原を侵す。先軍と云う。と云う。先
 陣を為生カニシなり。確タシにくと云う。さう人々を先
 と向コトハ一々ありて。花原を先軍と云う。向コトハありて
 一々ありて。向コトハありて。向コトハありて。向コトハありて。向コトハありて。
 集七日先軍と云う。向コトハありて。向コトハありて。向コトハありて。向コトハありて。向コトハありて。

やうく仕宴と付る致子極め一更の事故中
 の薄液ヒヤウユはらり口としくと極ま一と多勢
 を出ー打掃ハクくんとせーつと。唾とら取入ーを
 了。此のテネとい良人。大畧東子入るん致うる人。
 いうて直ーうんといそめさかシナワラシハ十
 方よりれまといね。極るよりわか勢うもた
 だすうの扱アツカヒをけよとて。益カサを出ーるを。
 味方は子氣とゆえゆひくーをと急キウよ、とら
 といく。衆ヨセ致うせんといまうひなれ。和クホク體乃
 とい子却イナ一保志。保人おとらうさなり。さううせ

一まよま言ねま。溢フれ志なる丸一宗入時と
 必りけくおめよさけへ。狭ロバさ丸よ人のヨホ一
 致よ留よよと。恙ナクく扱ナク代ナクり。又ハ生イケナリ病ナク子
 一とらうーと入て本丸よ在ー弱シマク兵ナク五
 人十人何もうとらうかけら成セ一ナクらつ
 とそれいそ志とねら。の志とおら。雅ナクハれえ
 一のーる内子落果ハクよなり。三と丸一宗入
 一勢又二と丸一取入られいさ宗落てゆえぬ
 万志た。死と極て尺とるよなり。後物ナクを三
 一宗ナクと極めを宗志と。恙く打果ナクさハ

能勢士ありし新死しんぞ唯本丸と捕て後
せより一たしありしとくくらの物と云せけ
しハ本丸と兵共ハ幸子落果て人ありと云せ
ちてハ有さしん本丸と捕て云せし衆人皆
と治海一と云し一原と云し一原と云し一
つとく人云しお極め本丸と捕えりりり
て二と丸と二三百人有し兵と調略と云し人
死せりお一てハ首と伐くて首数七百五十
秀吉公へ母の長女下分新八郎と云し上
ふれんすか鷹美一ありて治威状と云し。

とて度奥列九戸之名故維有し不橋系之剛
兵数多し其方一力之覚悟即時衆捕首数
七万五十到來悦且合兵と般陣中身一
子柄定一あり日本守ぬと剛と云し治威
状と云し

天正十八年
八月四日

秀吉治判

治威後ゆり

とて度退治し回し治威ありし治付秀吉公

至之津有治勅在て後世傳正少所石田位部
か箱大岩形部か箱身りてか之れ一階
捨込と出車一り自之れ之り思賜之衣
たのみ

○ 清和行刺之事

一併豆 お摸 上野 下野 武藏 上総

下総 大納言家原卿

一尾張 再小治勢五郎 中納言秀次卿

一奥列十七郡 羽柴氏源氏氏卿

一田八郡 本村治勢卿

一三列内十五万石	羽柴三兵衛少将輝政
一田五万石	田中六郎左衛門
一在江内十二万石	尾庵若刀先生吉晴
一田五万石	山内新馬守
一在列内三万石	藤原正房少将
一臨河	中村式部少将
一甲斐	加賀左衛門守
一信列内小室城附五万石	子右衛門兵衛尉
一田小室系郡	石河忠重守
一田伊奈郡	羽柴氏内守

元基毛利也

一回本多二部

治養入山内安石川掃部

一回飯沼部

日根野織部

如北各加領領領自つつううやうう入部之神
いともかへてにたり。

証白。奥ノ基送りたる何れ。信長云二百五郎
中将位権之とと秋田を流せれり。是
秀吉云つうのり。一人より有。と信長云
取立扱ひぬり。國を思ふ有。一人皆之所
也。然方と彦も加領領之國ととまのり。や
りんり。むねある人なり。

